

SDGsから考える

「地熱発電発祥の地」

活用事業

～100年前の歴史遺産を
地域活性化に活かせるか～

日時 2024年11月9日 13:00-15:00

場所 別府大学メディア教育・研究センターメディアホール

司会 佐藤 芙蓉(国際経営学部4年)

脱炭素社会の有力手段として注目される地熱エネルギー。日本での地熱発電に向けての稼働実験は1925(大正14)年11月13日、別府市で初めて成功しました。イタリア、米国に次ぐ世界3番目の快挙でした。最近、多くの関係者の努力によって鉄輪地区の林にある噴気孔跡も確認されました。歴史的な出来事から100年が経過しようとする今、その遺産をどのように活かしていくのか、問われようとしています。

【プログラム】

13:00 開会あいさつ(趣旨説明)

13:05<基調報告>

- ①「地熱発電発祥の地」の経緯と現状
阿部 博光(別府大学国際経営学部教授)
- ②別府で芽生えた地熱発電の重さとは
菅 健一(「別府八湯トラスト」代表)
- ③SDGs、地域活性化に活かせるか
大久保 千夏(OAB ニュースプロデューサー)

14:00<パネルディスカッション>

テーマ「100年の歴史遺産をどう活かすか」

コーディネーター 阿部博光

パネリスト 菅 健一

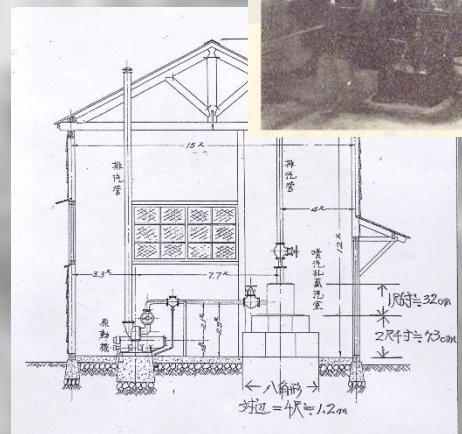
大久保 千夏

千壽 智明(株式会社海地獄社長)

恒松 栖(秘湯「湯山の里温泉」代表)

※会場の方々に意見・質問用紙を配布しますので、休憩時間にご提出ください。みなさまのご意見をもとにパネルディスカッションを行います。

※駐車場には限りがございます。できるだけ、公共交通機関をご利用してお越しく下さい。



写真の出典：『地熱発電ノ研究』

【お問合せ先】

0977-86-6734 (国際経営学科：阿部博光)